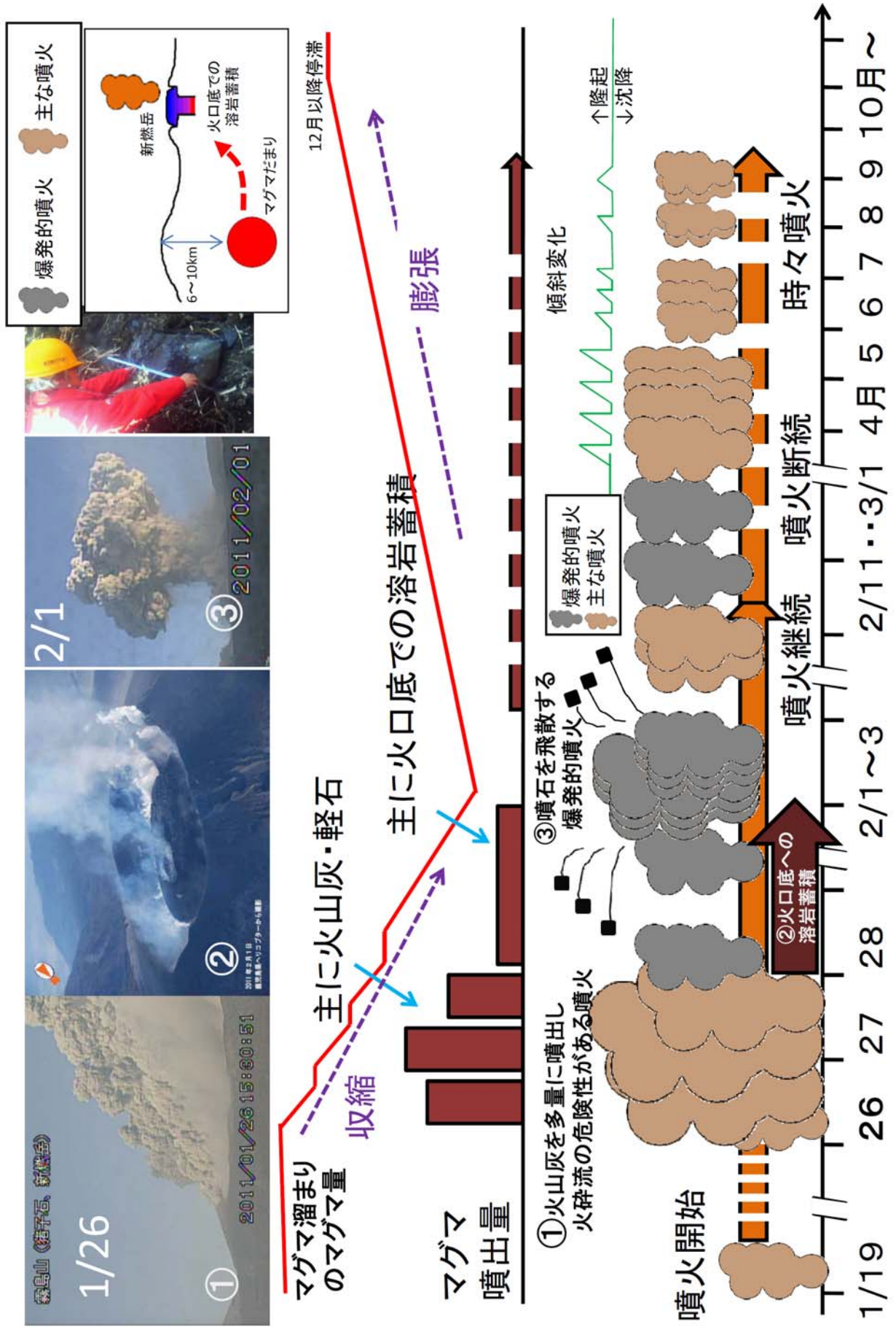


新燃岳噴火活動経過 (2011年1月19日～2012年2月28日)



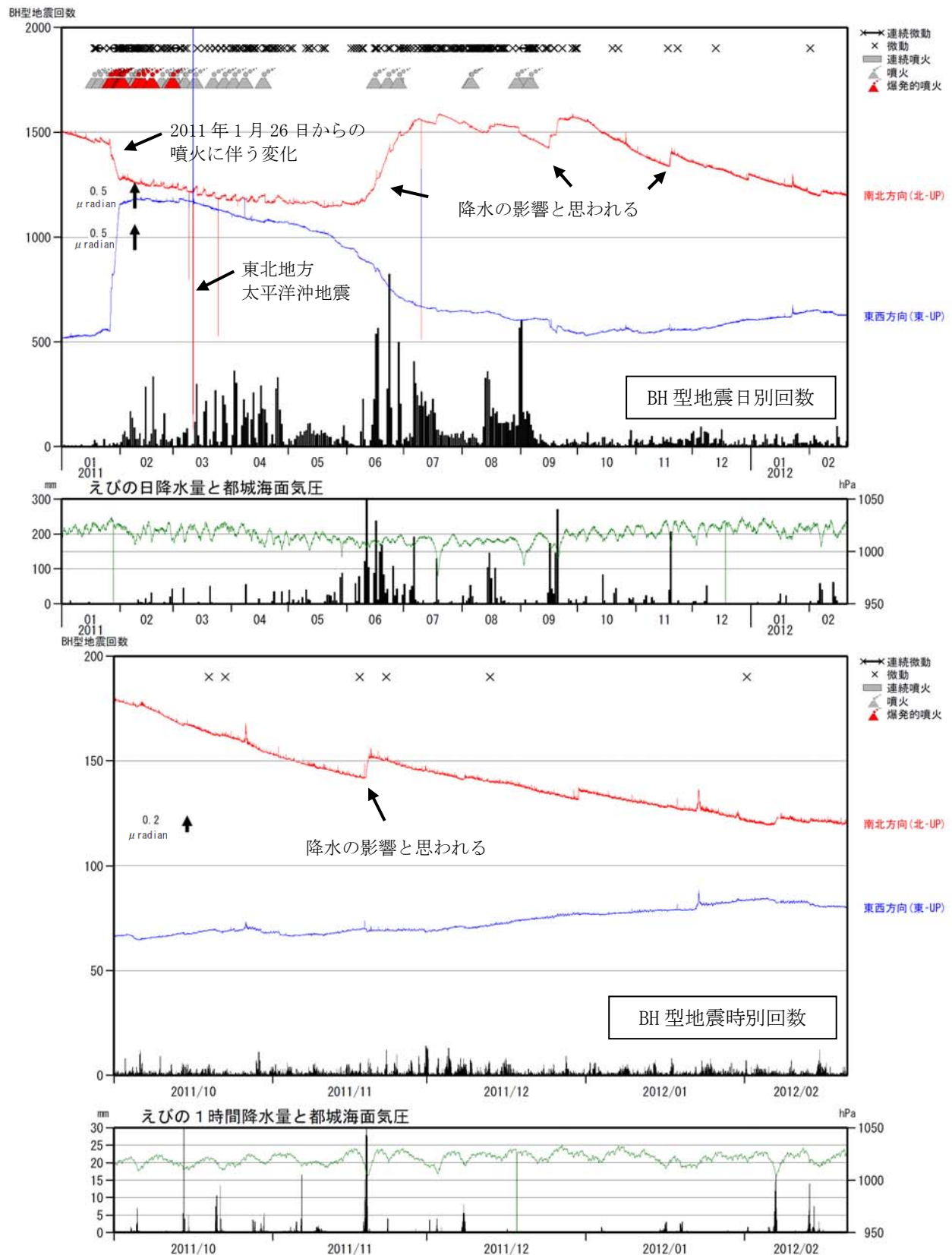


図 4※ 霧島山（新燃岳） 高千穂河原の傾斜変動
傾斜計では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

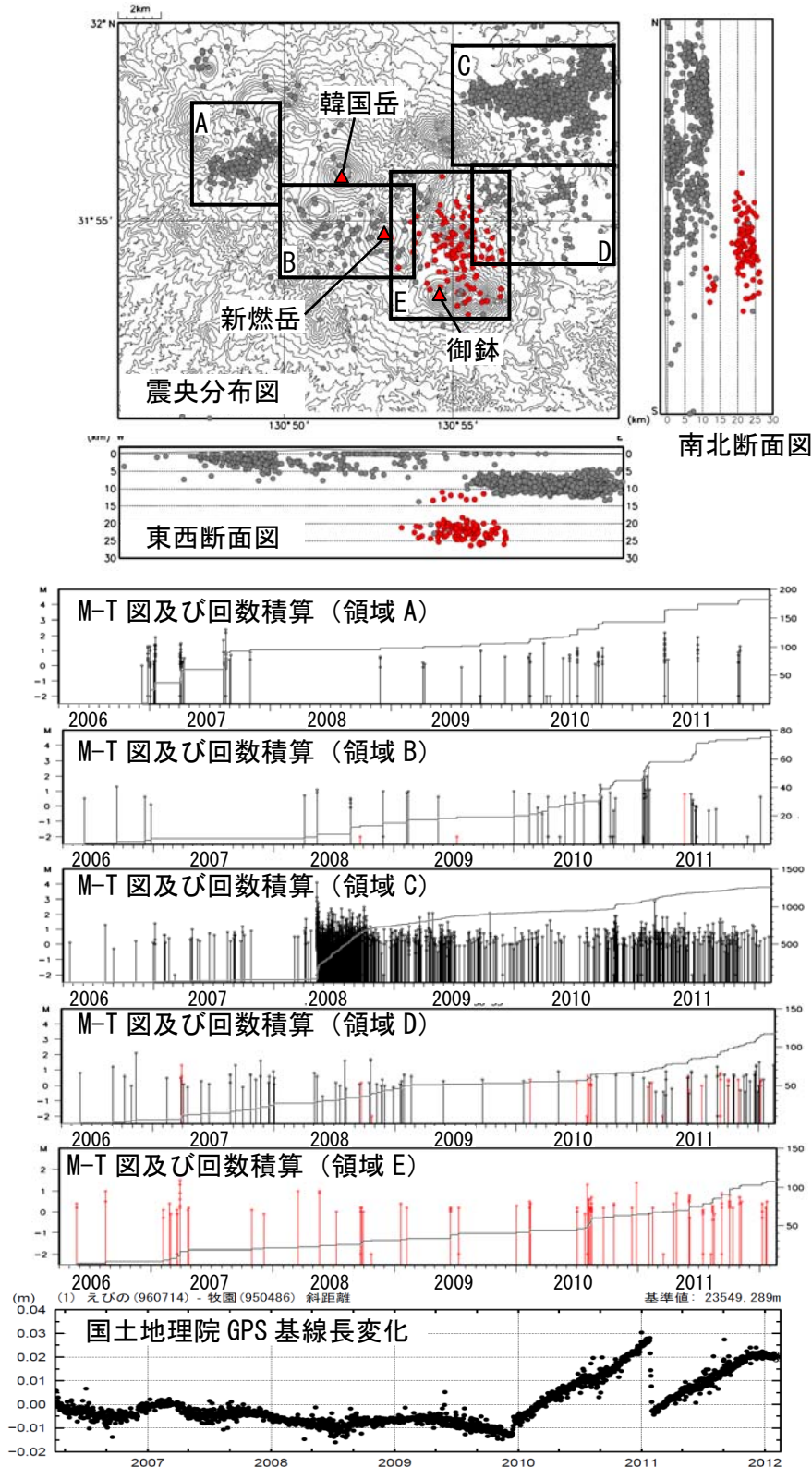


図 10※ 霧島山（新燃岳）一元化震源による地震分布（赤は低周波地震を示す）及び国土地理院によるえびの-牧園の基線長変化（2006 年 4 月 1 日～2012 年 2 月 14 日）

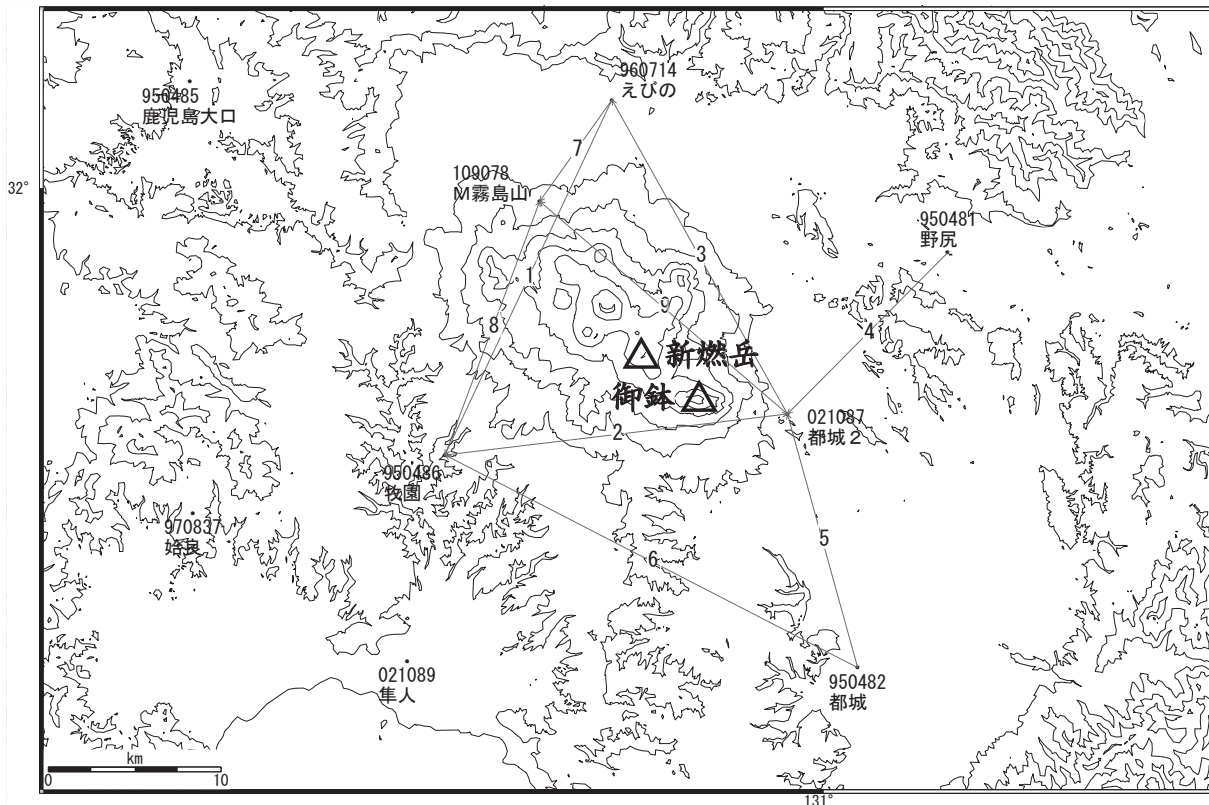
- ・ 韓国岳西方（領域 A）では、地震回数の増減を繰り返している。2010 年 1 月頃から、地震回数がやや増加したが、2010 年 10 月以降は間欠的な発生となり、2011 年 4 月、7 月、11 月に一時的にやや増加した。
- ・ 新燃岳の北西地下深くのマグマだまりから新燃岳付近（領域 B）では、2010 年 9 月、10 月、2011 年 1 月、2 月に地震回数が一時的に増加したが、2011 年 7 月以降は静穏に経過している。
- ・ 小林市付近（領域 C）では、2008 年 4 月頃より地震回数が増加している。
- ・ 高原町付近（領域 D）では、2011 年に入って地震回数がやや増加した。
- ・ 深部低周波地震は新燃岳の東方（領域 E）に分布しており、2007 年に一時的に増加したのちは、比較的静穏に経過していたが、2010 年 7 月頃よりやや増加している。

国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用した。

霧島山

霧島山周辺では、「えびの」－「牧園」、「牧園」－「都城2」、「都城2」－「えびの」の基線において、新燃岳で2011年1月26日に噴火が発生して以降2月1日まで顕著な縮みの傾向が見られたが、その後伸びの傾向が見られる。2011年12月初め頃から、それまで見られていた伸びの傾向がやや鈍化し、2012年1月以降ほぼ停滞している。

霧島山周辺 GPS連続観測基線図



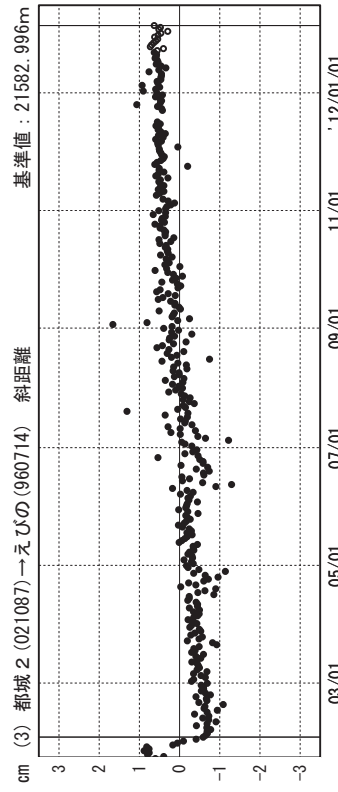
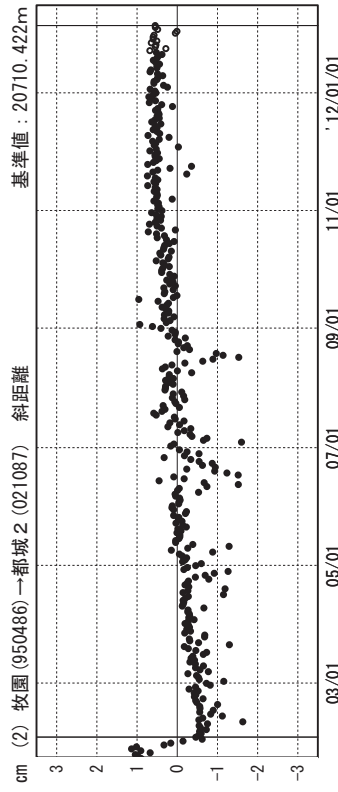
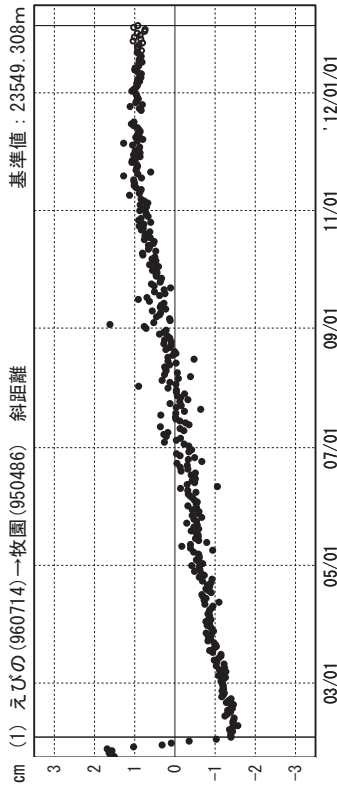
霧島山地区の各観測局情報

点番号	点名	日付	保守内容
950486	牧園	19981211	アンテナ交換
		20080523	周辺伐採
		20100302	レドーム開閉
		20101102	周辺伐採
960714	えびの	20080910	周辺伐採
		20111107	受信機交換
		20111222	受信機交換
950482	都城	20101110	周辺伐採
950481	野尻	20110921	受信機交換
109078	M霧島山	20110203	新設

※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

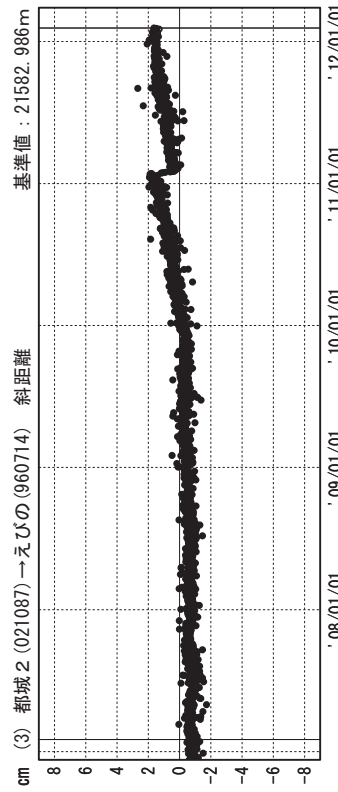
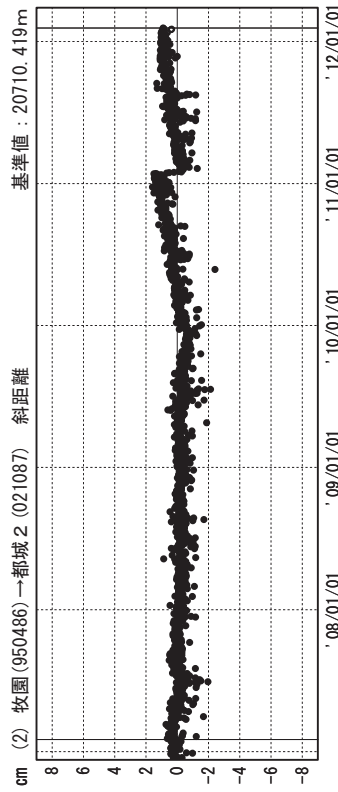
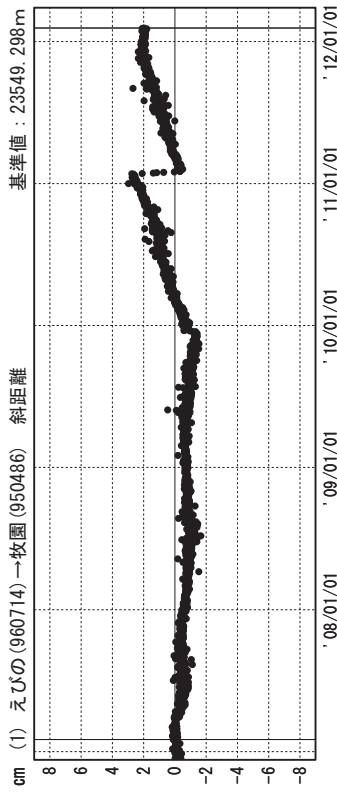
基線変化グラフ

期間: 2011/02/01~2012/02/04 JST



基線変化グラフ

期間: 2007/02/01~2012/02/04 JST



国土地理院

●---[F3:最終解] ○---[R3:速報解]

※R3:速報解は暫定、電子基準点の保守等による変動は補正済み

霧島山

霧島山深部のマグマ蓄積の鈍化がみられる。これを大学のGPS観測網のいくつかの基線(図4)の基線長変化を示す(図5)。基線長変化図の色と基線の色は対応している。

新燃岳を南北に挟む基線(赤、緑)は昨年8月頃に鈍化が始まったように見える(下図矢印)のに対し、マグマ溜まりと思われる圧力源を囲む基線(紫、水色、黄色、黒)は、昨年11月~12月以降の鈍化が開始したように見える。

新燃岳直下へのマグマ供給が鈍化して、その後に深部マグマ溜まりの蓄積が鈍化したように見えるので、大元の深部からのマグマ溜まりへの供給が低下した可能性がある。これは一時的な現象で蓄積が再開する可能性もある。

本格的なマグマ蓄積の鈍化が始まったとすると、今後はマグマ後退期の噴火活動にも注意を払う必要がある。

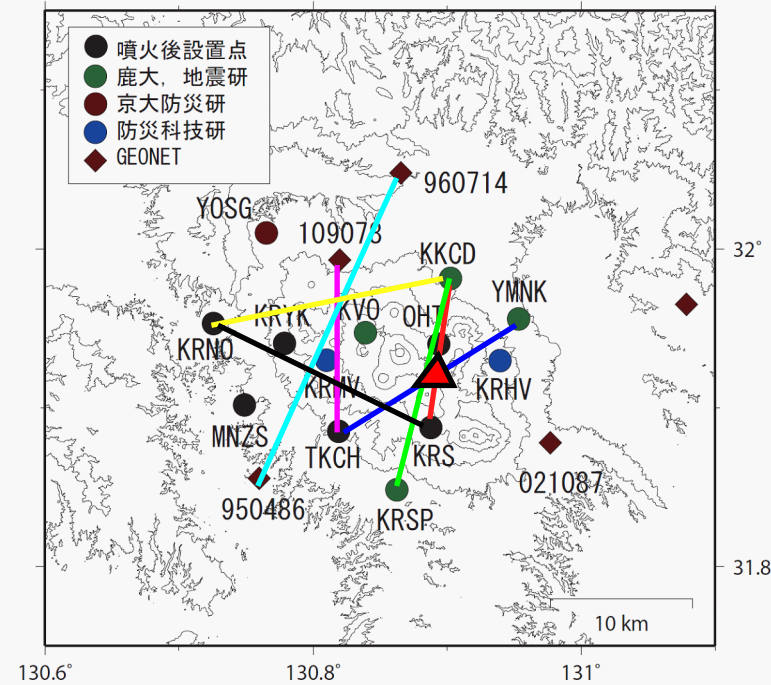


図4 図5で時間変化示す基線

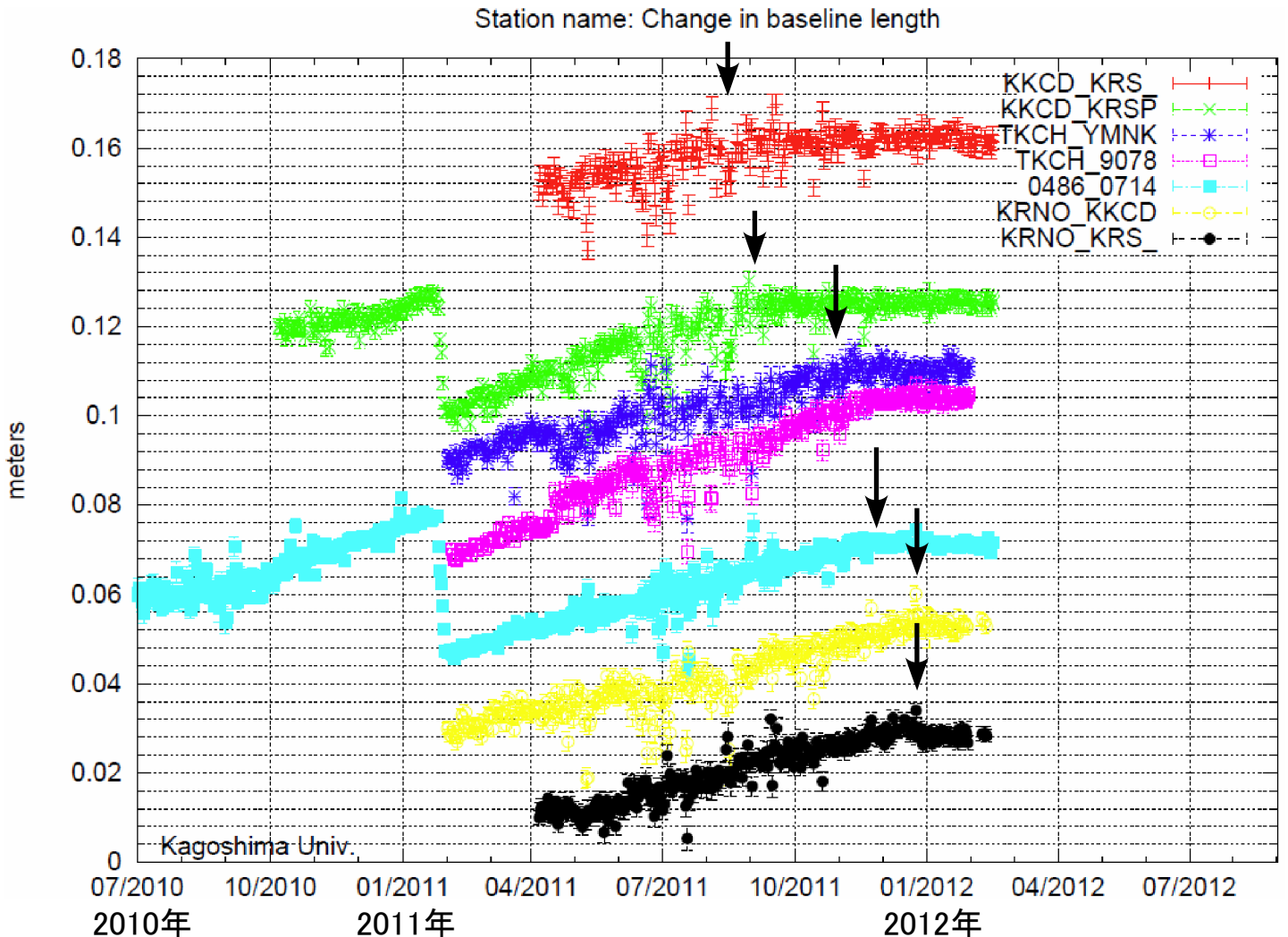


図5. 新燃岳を囲む基線と深部マグマ溜まりを囲む基線の基線長変化



図 1※ 桜島 2012 年 1 月 20 日 06 時 17 分の爆発的噴火の様子
(大隅河川国道事務所設置のカメラによる)

大きな噴石が 3 合目まで達し、噴煙は火口縁上 1,800m まで上がった。

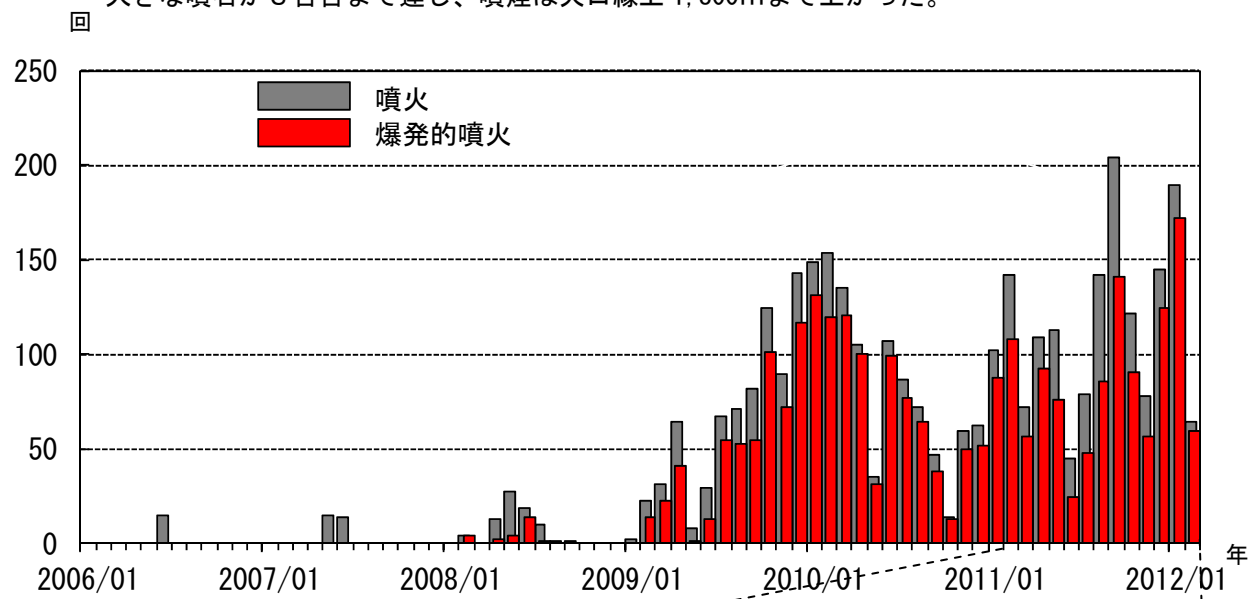


図 2 桜島 昭和火口の月別噴火・爆発回数 (2006 年 1 月～2012 年 2 月 20 日)

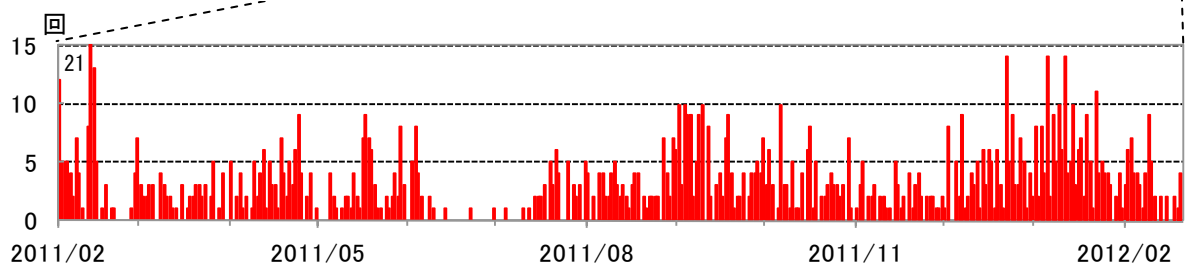


図 3 桜島 日別爆発噴火回数 (2011 年 2 月～2012 年 2 月 20 日)

爆発的噴火が多い状態が続いている。

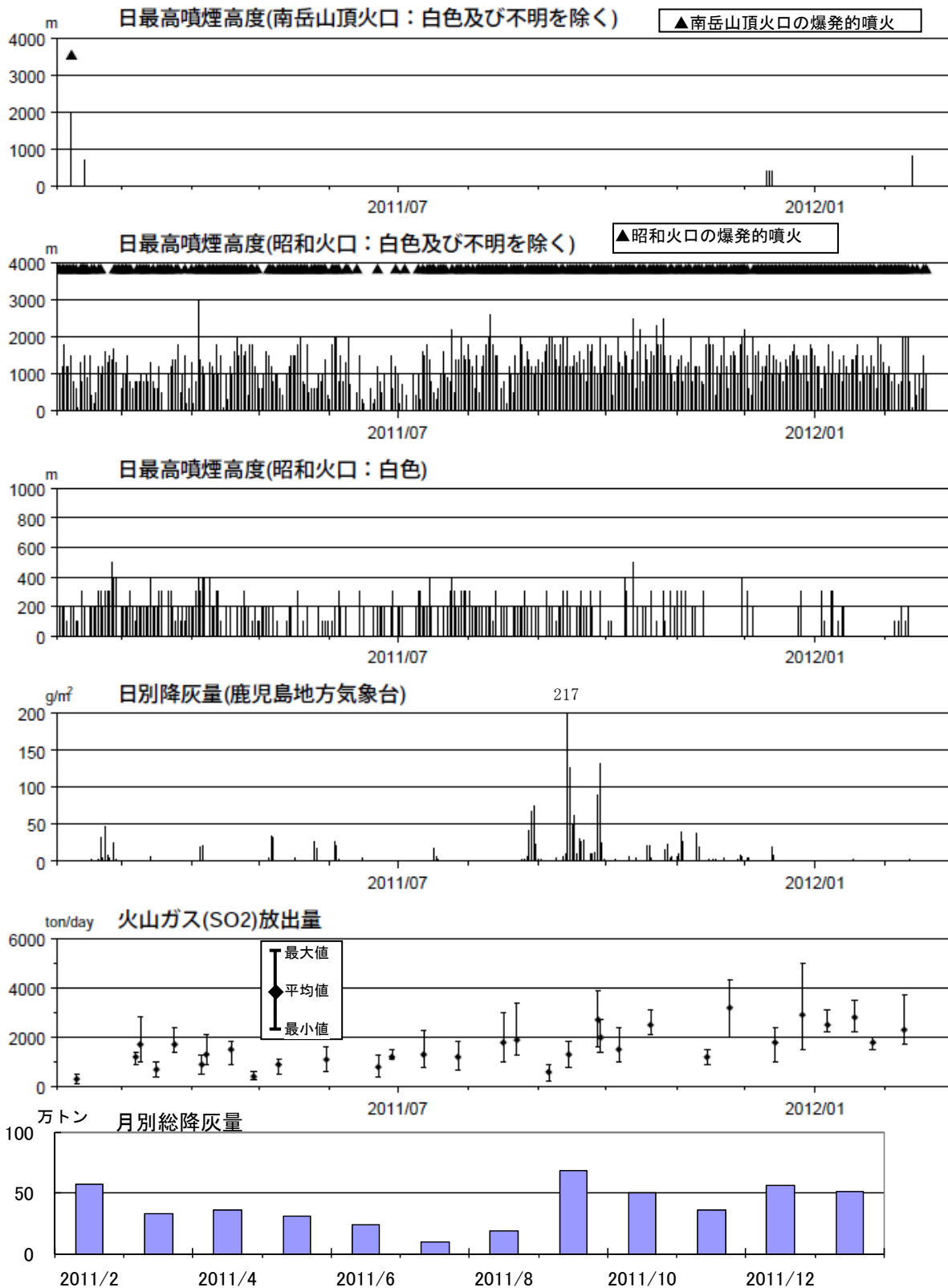


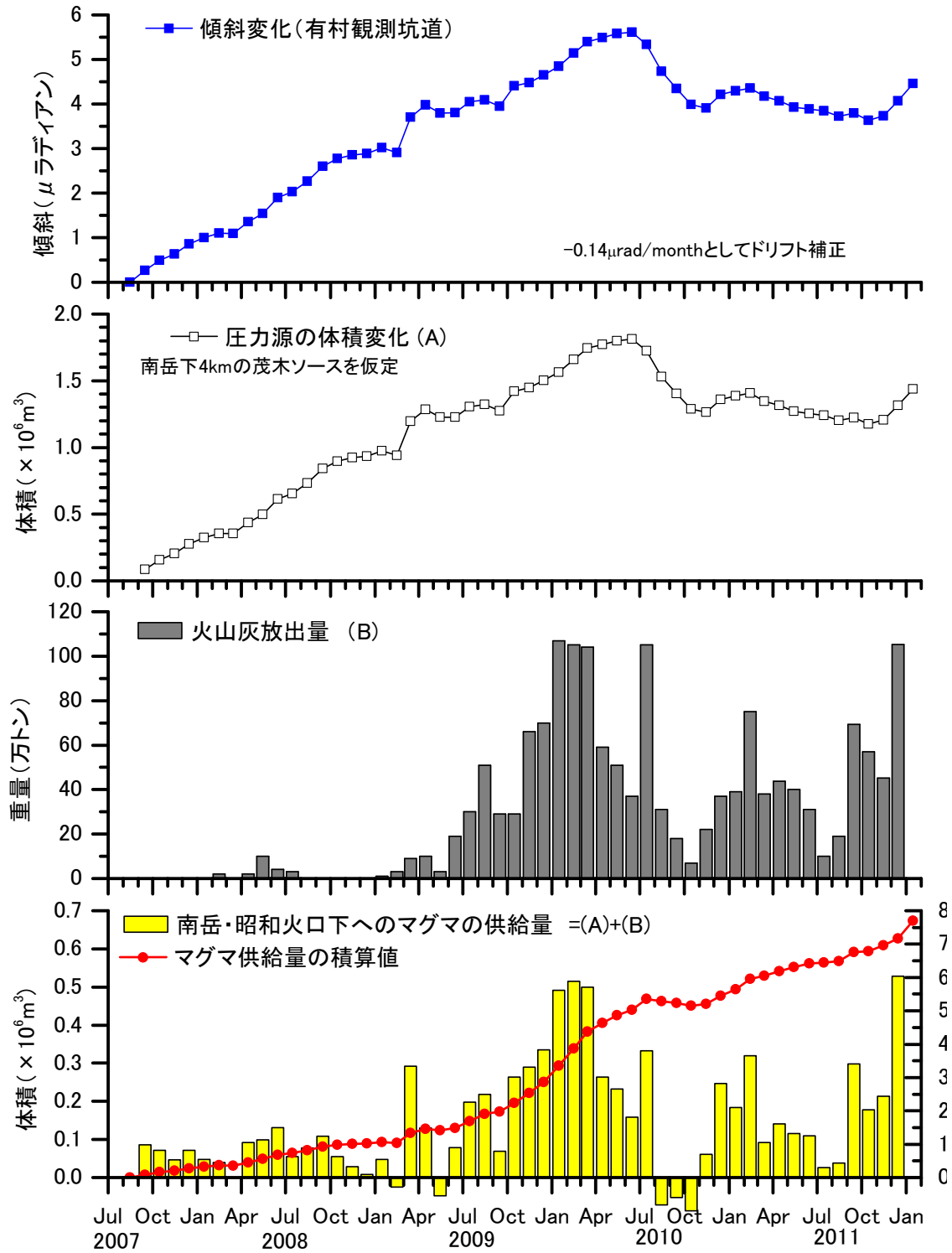
図 4 桜島 最近 1 年間の噴煙、降灰量、火山ガスの状況

(2011 年 2 月～2012 年 2 月 20 日)

<2011 年 10 月～2012 年 2 月 20 日の状況>

- ・ 昭和火口では、噴火は 599 回発生し、そのうち爆発的噴火が 504 回であった。
- ・ 南岳山頂火口では、ごく小規模な噴火が発生した。
- ・ 鹿児島地方気象台で 333g/m² (降灰日数 41 日) の降灰を観測した。
- ・ 火山灰の月別の量は、2011 年 10 月 50 万トン、11 月 36 万トン、12 月 56 万トン、2012 年 1 月 51 万トンであった。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、多い状態で推移した。

南岳山頂下へのマグマ供給量の見積もり



京都大学防災研究所

桜島

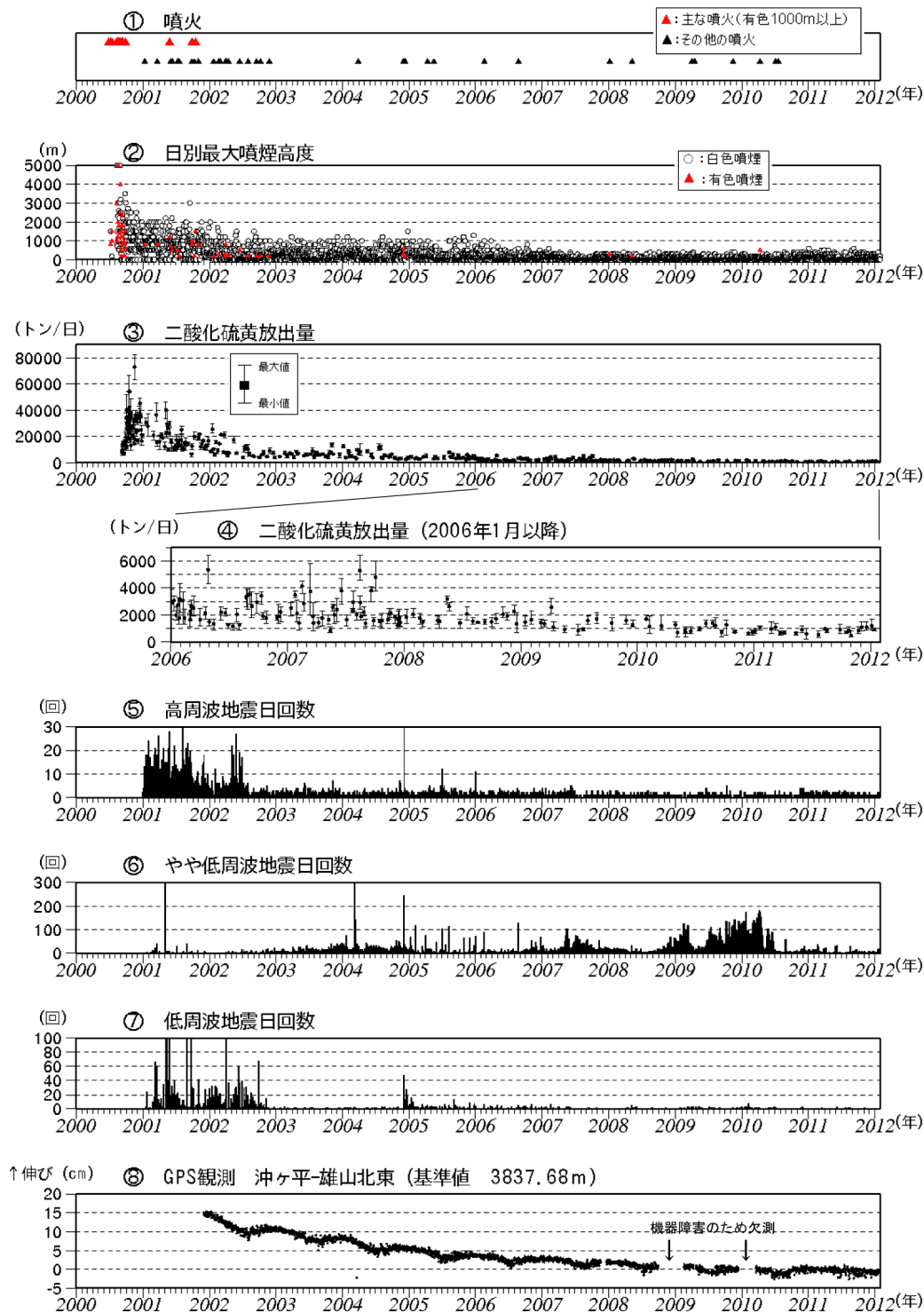


図 3※ 三宅島 火山活動経過図 (2000 年 1 月 1 日～2012 年 1 月 31 日)

注 1) ③④は、2005 年 11 月まで、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て観測したデータをもとに作成している。

注 2) ③④は、気象庁火山課、三宅島測候所、産業技術総合研究所地質調査総合センター及び東京工業大学火山流体研究センターが共同で行った。2000 年 9 月以降は COSPEC V 型 (Resonance 製)、2005 年 5 月以降は COMPUSS による観測結果をもとに作成。

注 3) ⑤、⑥及び⑦は、地震タイプ別の計測を開始した 2001 年から掲載。
 検測基準：雄山北東観測点 S-P 時間 2.0 秒以内、上下動 12 μ m/s 以上

注 4) ⑧は、図 1 (観測点配置図) の GPS 基線②に対応する。

2010 年 10 月分以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。

- ・ 山頂火口からの噴煙活動は、火口縁上概ね 100~400m で推移している。
- ・ 山頂浅部を震源とする地震は少ない状態で経過している。